

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.16 2007年10月5日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 HP: <http://www.seikei-seminary.org/>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。灼熱の夏を生き延びた寮生たちが、秋の涼風を部屋いっぱいに取り込んで、学期休みを満喫しています。卒業生のA兄率いるプロジェクトチームが、別館入り口に屋根を取り付けている槌音も。しばらく姿を見なかったトノサマガエルは、先日の夜、本館通用口前で出迎えてくれました。季節が移り変わる中、神学校を盛り立ててくださる皆さんとともに、年度も後半へと突入です。

「主は季節のために月を造られました。太陽はその沈む所を知っています」(詩104:19)

校長 関野祐二

● 55名で後期スタート

学びと交わりを楽しんでいるように見える在校生たちですが(前者は大いなる思い違い?)、ある時尋ねてみたら、「夏休み明けがいちばんつらい」とのこと。夏の猛暑と奉仕疲れで身体(とアタマ)は動かず、前期の残り一ヶ月に試験やレポートが集中するプレッシャーもあるのでしょう。そんな重苦しい9月ですが、中旬に後期からの聴講生受け入れ面接を行い、3名の方が加えられました。昨年9月の7名には及ばずとも、共に学ぶ方々が新たに与えられるのはとてもうれしいことです。事情により聴講を前期で終了する方との差し引きで、後期は総勢55名スタートとなりました。卒業予定の8名にとっては、第4コーナーを曲がって最後の直線コース突入ですね。

そうそう、9月6日夜と7日午前は、台風直撃のため臨時休校に。「とても残念です」と言いながら目が笑っている寮生もチラホラ。きっと自宅学習に精が出たことでしょうね(アレレ)。

● 中秋の名月を愛でる

前期の最終週、期末試験初日の9月25日は中秋の名月。旧暦8月15日を秋の真ん中という意味で中秋とよぶそうです。空気が乾燥し、月がきれいに見えるこの時期にお月見をするのは、中国の習慣が伝来したとのこと。お供え物は御法度ですが、秋の夕べに月を愛でるのは美しい日本の伝統です。宣教学の試験でへろへろの熟年神学生2名を慰めようと、終わりの時間を見計らって玄関前に双眼鏡をセット。中天には真っ白に輝く丸い月がかかっています。覗いてみたら、満月二日前で東縁にクレーターも見え、それはそれは鮮やかな光景。たまたま居合わせた神学生を引っ張り込み(クレネ人シモンみたい)、仕事帰りのほらぺこ神学生にも声をかけ、宣教学の小川先生や教団事務員の方も誘い、みんなでワイワイお月見です。満月近くの時期は、太陽光が月面を垂直に照らすので、凹凸は見えにくいのですが、クレーター形成期に隕石が衝突した際、白い物質が数百kmも四散した「光条」が、大きなクレーターから放射状に見えるので、壮観なのです。「あっ、これがうさぎの耳ですね」と先生。星や月をいっしょに見ると、誰もがやさしくなるのがうれしいです(小川先生は怖くないので念のため)。続編は後期の夜授業までお預け。

● オープンキャンパスにおいてなさい

ようやく涼しく、と思ったのも束の間、みんなが熱くなる(?)、恒例の「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」が10月27日(土)に近づきました。今年が目玉はズバリ、午後の特別講演会「終末を生きる神の民」です。講師の後藤敏夫先生は、JECA・キリスト教朝顔教会牧師で、キリスト者の社会的責任や霊性の分野で先駆的働きをしてこられた方。同名タイトルの著書が改訂新版として最近出版されましたが、実は再版を強く働きかけた一人がこの私。17年前の初版から、キリスト者としての歩みに強い影響を受けたので、ぜひ多くの人に、と願っていました。福音に立つキリスト者が、この世でどのように社会的責任を果たしていくべきか、聖書の全体的枠組みから捉えていく、たいせつな機会となることでしょう。ご期待ください。

午前の公開授業は、来年度開講予定の「教理史」味見クラス(丸山悟司先生)と、私の担当する老舗の新約緒論。いやし系(多分)とシゴキ系の組み合わせ。チャペル説教も同先生にお願いしました。声優のような低音の魅力を(おっと、献身を目指す方々へのみことばも)お楽しみに。

お昼はこれまた恒例の、学生会主催昼食会。どんな証しが飛び出すか、毎年興味津々(やや恐怖)です。当日参加できる在校生総出で皆さんを歓迎しますから、明るく自由に健康的(ホントかな?)、しかもキリストの香りがする(はずの)校風を体験してください。詳しくは別紙で。

● シニア世代への応援歌

学期休み初日の10月1日は、会議のため名古屋に。「日本福音主義神学校協議会総会」といういかめしい名称ですが、ようするに福音的神学校の校長連絡会です(なんと今は私が会長)。シンポジウムと事務総会の二本立てで、年一度神学校持ち回りにより開かれます。今年のテーマは、「シニア世代への神学校教育」。どこの神学校にも定年前後の熟年入学者が目立つようになり、働き人不足のキリスト教界事情も相まって、こうしたシニア世代をどのように教育し、求める教会現場へと送り出すかは急務な課題です。シニアコースを設けている神学校も、これから検討する神学校も、本科生教育との兼ね合いが難しく、未だ試行錯誤の途上といった感あり。

転じて我が校は、たとえば、専用コースを設ける間もなく(設けるまでもなく?)、さまざまな面でシニア世代の神学生に支えられています。クラスも課題もみんないっしょですが、よく努力されていますし、年齢の面でネックになると一般に言われる語学クラスは、基礎がいっしょで、旧新約講読(上級)選択クラスを(若い)希望者が履修。単位制で、学ぶペースも自由ですから、無理なくやっている様子。平たく申せば、近年目指しているカリキュラム全体のレベルアップに、シニア世代がよくついてきてくださっている(皆を引っ張っている面も)、ということでしょうか。

経験(敬虔)豊かなシニア世代の努力と謙遜、シニア世代への尊敬と傾聴、そうした相互のバランスが保たれるなら、みんないっしょの本校は、深みのあるすばらしい共同体になるでしょう。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 聴講生3名を加えた在校生55名の、後期10月9日から始まる学びと生活、霊性が支えられるように。特に、卒業を控えた専門科8名の、残り半年の歩みが守られるように。
- ・ 10月27日(土)の「献身者の集い」に多くの方々が来校され、入学者増加と支援の拡大、神学校との関係強化につながるように。特別講演会での後藤敏夫師の働きのため。
- ・ 聖契神学校が、学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。キリスト教界における使命と役割を十分果たしていけるように。